

トーフバクバク

仲宗根 カマ (1906・M39) 字渡具知 (00:54)

あぬー、何処^{まー}んくい、くれーしぐ^{やんぼるせんむ}山原船持ち、
彼^{あま}処^{くま}からん此^{ちゆ}処^まからぬ人ぬ混んちゃーひんちゃーし
ぬ乗とーる船^{ふに}やるばー。

あぬー、風^{かじあらし} 風^{ふに} はっちゃかやーにや。はっちゃかや
ーに、うぬ船^わぬ割りたくとぅ、其^{うんま}処^{ちゆ}かい人^{なが}ぬる流り
てい来^{ちや}がやー。死^しじえーんてー、死^しじ寄^ゆてい来^{ちや}くとぅ、
とぅぐ^ち 渡^{ぶらく}具^{ぶらく}知^{ちや}ぬ部^{ぶらく}落^{ちや}かかていどー。部^{ぶらく}落^{ちや}かかてい来^{ちや}くとぅ、
なー区^{くちやう}長^{ぎいん}、議^あ員^{めー}なーうれー当^あたい前^{めー}やしえーやー、
部^{ぶらく}落^ゆんかい寄^{ちゆー}てい 来^{しえー} しえー。

あんひちやくとぅ、其^{うんま}処^{しんか}ぬ人^{とう}達^{とうどう}ぬ取^とい 届^き 届^ひ 届^ち
えーるぐとーん、うぬ洞^{がま}窟^{くんど}んかい。あんさーに、今^{こんど}度^{くんど}
お骨^{こつ}ん其^{うんま}処^{とう}てい取^とやーに、くっぴびかーそーる箱^{はく}ぐ
わぬ有^あんよー。うぬ箱^{はく}んかいいっばい骨^{ふーに}ぬ有^あさ、
今^{なま}ん。戦^{いくさ} ねーやんらってーをうらん、有^あんどー。

うりんかい、豆腐^{とーふばく}箱^にんかい似^にちよーんでいやーにト
ーフバクバクでいちよーるばー。

【共通語訳】

あのう、その山原船はね、あちらこちらの人たちが
一緒に乗っている船だったようだ。

ある時、航海中に嵐にあつてしまった。船は壊れて
渡具知の浜に人が流されて来たんでしょね。遭難し
て亡くなった人たちが、渡具知に流れ着いた。そした
ら、区長や議員は当然世話をしないとイケないでしょ
う。

そういうことで、渡具知の有志が片付けて、その
洞窟に葬ったようだ。その後（何年かして遺体が朽ち
てから）、遺骨を拾って、適当な箱に収めた。その箱に
はいっぱいの骨が入っているさ、今でも。去る戦争に
も壊れず、そのまま残っているよ。

その箱が豆腐箱に似ているということで、トーフバ
クバクと呼んでいるわけさ。